

ピーマン株元加温の効果と簡易設置法

促成ピーマンでは、ハウス内の最低気温が 18℃を下回らないように暖房を行っているため、燃料費が高額になっており、生産経費削減技術の開発が求められています。このような中、福岡県において、温風暖房機の枝ダクトとトンネルを組み合わせた促成ナスの株元加温技術が開発され（技術の窓 No. 1849）、普及が図られています。そこで、鹿児島県農業開発総合センターではピーマンで株元加温の効果を検証するとともに、従来の株元加温のトンネル設置は畝中央で2枚のフィルムを貼り合わせるなど、中腰での作業で労働負荷が大きいいため、簡易なトンネル設置方法を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 株元加温により、商品収量は慣行の加温法とほぼ同等ですが、燃料使用量は 22.6～21.9% 削減でき、燃料費は 42～46 万円/10a 程度の減額が見込まれます。
2. 簡易設置法の作業時間は、慣行設置に比べて4割（25時間/10a）削減でき、トンネル支柱が不要なため経費削減にもなります。
3. 簡易設置法は以下のとおりです（図1、2）。
 - (1) 作畝後、畝の上に株元加温用の枝ダクト、かん水チューブを設置し、さらにマルチフィルムを持ち上げるためのバインダー用ひも（以下「持ち上げ用ひも」）も設置します。
 - (2) 畝より幅の広いマルチフィルムを被覆します。
 - (3) 定植後、マルチフィルムを畝中央に寄せ束ねます。その後、加温時期になったら、持ち上げ用ひもを引き上げ、マルチフィルムを三角テント状になるよう空間をつくります。
 - (4) 主枝の分岐部分に持ち上げ用のひもをずれ落ちないようにテープナーなどで固定することで主枝が支柱代わりになります。

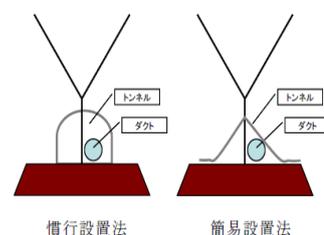


図1 設置法の模式図



図2 ピーマン株元加温の簡易設置法

☆ 活用面での留意点

1. 簡易設置法は、ナスなど株元加温を行う他の施設果菜類にも応用できます。
2. 株元加温のトンネル設置は、摘葉後の傷口が乾燥した後にトンネルを設置するなど軟腐病など細菌病の感染に注意する必要があります。
3. 詳しいことは、鹿児島県農業開発総合センター(TEL:099-245-1125)へお問い合わせ下さい。
(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)